

# 機器のグループ分けについて

ISO規格、ISO 10816-3 : 2009に回転機械におけるコンディションの総合判定に使用する絶対判定値の記載があり、速度のrms値（速度の実効値）を総合判定に使用する様に記載がなされています。その図を下図に示します。

振動シビアリティ測定器に関する要求事項 ISO 10816-3 : 2009

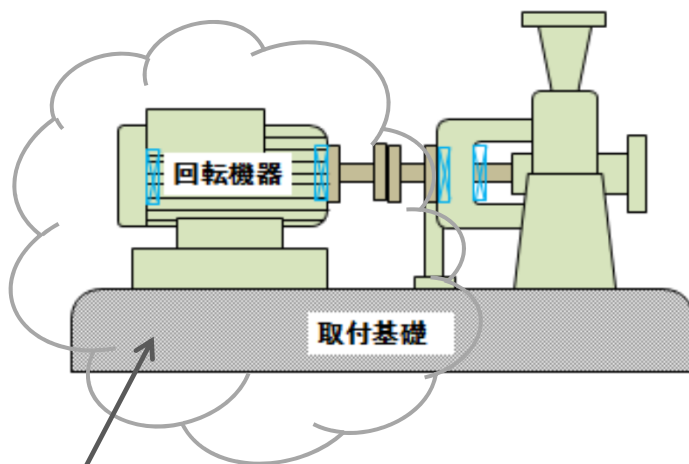
振動シビアリティの値		機械のグループに対する「よさ判定」例			
速度のrms値 -区分境界の値-		グループ2		グループ1	
0.71	mm/s	A	A	A	A
1.4		B	B	B	A
2.3		C	C	C	B
2.8		D	D	D	C
3.5		D	D	D	D
4.5		D	D	D	D
7.1		D	D	D	D
11.0		D	D	D	D
機械の基礎状態		固い	柔らかい	固い	柔らかい
ペンシル型簡易振動計の判定		VI	VII	VIII	IV

「よさ判定」例 A:良 B:可 C:警告 D:危険

グループ1 大型機械 出力、300kW~50MW  
 グループ2 中型機械 出力、15kW ~300kW

**弊社、ペンシル型簡易振動計  
iPM-100の“MODE”**

回転機器は出力に応じてグループが2つに分類されます。  
 さらに、取り付けられている基礎の状態で「固い」と「柔らかい」に分類されます。



この基礎状態で分類する。

例：

回転機器の回転数が1800rpmの時、基本周波数は30Hzです。基礎を含む固有振動数が30Hzの25%以上つまり、37.5Hz以上であれば、「固い」基礎に分類され、37.5Hz未満であれば、「柔らかい」基礎に分類されます。